



発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<https://chiba-teacch.online/>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内 TEL :043-227-8557

第3回 連続セミナー

表題 「重度知的障害のある ASD の子どもへの移行期における教育的支援」

講師 明星大学教育学部教育学科 特別支援教員コース

助教 佐々木 敏幸 氏



10月に行われた第3回連続セミナーでは、明星大学教育学部教育学科 助教であります佐々木敏幸先生をお迎えして「重度知的障害のある ASD の子どもへの移行期における教育的支援」について、ご講義いただきました。佐々木先生は、青年海外協力隊を含め、特別支援学校等、教育の現場で20年あまりの経験をおもちになり、現職についておられます。今回のセミナーでも先生ならではの視点で、学校現場の現状、実践を通じた子どもたちへの教育的支援の在り方を丁寧に教えていただきました。

現在の特別支援教育(学校)の現状について

- ・現在は子どもの数、全世代に占める子どもの割合共に減っている。しかし、特別支援教育の対象となる児童は増加の一途をたどっている。
- ・さらに文科省の調査によると「通常の学級に在籍し、学習面・行動面で著しい困難を示す者」の割合は8.8%と公表された。40人学級と仮定するとクラスに3.52人いるという結果。
→教室には多様な子どもが集まっており、先生の専門性に担保されている現状が見られる。さらに本田秀夫先生のおっしゃる「日本の学教教育は構造的問題を抱えている」という点を指摘し、両価構造（標準化されたカリキュラム⇄特別支援教育の求める個別のカリキュラム）と問題提起いただきました。

構造化とは

- ・構造化=Structured TEACCHing (ASDのある人の学習スタイル、特性の理解に基づいて視覚的支援を用いることで理解を助け、自立を促進する支援方法)、佐々木正美先生のおっしゃる「構造化のアイデア」の視点を大切にしたい。
→構造化の「3つの切り口」と「3つの要素」（スライドを参照）の視点を考えることが大切だと教えていただきました。

アセスメントの重要性

- ・実態把握とは「子どもの状態を適切にとらえ、発達課題を見定めること（川上）」である。フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントに分けられるが、客観性を大切にしなければならない。
- ・フォーマルアセスメントは初期ではなく、中間に用いることが合理的である。
→教師はインフォーマルな見立て（行動観察など）から実践を重ね、再構造化を図る際にフォーマルな見立てを参考にすると効果的な再構造化につながると教えていただきました。TTAPを用いてエラーが起きないシステムにし、日常へシステムを拡大できるというメリットがあるとお話しされました。エラー

が起きないということが重要で、周りの子どもにも「彼はできる」という認識が生まれるとのお話もいただきました。

佐々木先生の実践（特別支援学校教員時代）を通して

- ・ルールは一緒に決める（落としどころを見つける）。
- ・支援がいまいちの先生は初めに作った支援ツールで何とかしようとする。支援ツールはブラッシュアップ（再構造化）することが重要であり、それによって子どもは自立していく。
- ・適切な支援をすることにより、教師の働きかけが「できたね」と見守ることだけになっていく。この形が理想である。

先生の特別支援学校 高等部での実践の記録をビデオなどで実際に見せていただくことができました。それは、子どもが自立していくための再構造化の記録でした。子どもの実態を「どう見取って、どういう根拠の元で再構造化していくのか。」が、目の前で解説される贅沢な講義でした。教員はもちろん、施設の方や保護者の方にも学校の現場を知る良い機会となりました。

千葉県TEACCHプログラム研究会のホームページが新しくなりました！

この度、千葉県TEACCHプログラム研究会は、ホームページをリニューアルいたしました。Peatixによるセミナー参加申し込みが、ホームページからでもリンクできるようになったほか、これまで同様、機関誌「森」のバックナンバーもご覧いただけます。

今後もホームページの充実を考えていきたいと思っておりますので、ぜひこの機会に新しくなったホームページもご覧ください。

新ホームページURL：<https://chiba-teacch.online/>

令和6年度 千葉県TEACCHプログラム研究会 第5回連続セミナーのお知らせ

日 時：令和6年12月15日（日）14：00～16：30（13：30受付開始）
会 場：千葉県教育会館 別館（これまでと建物が変わりますのでご注意ください。）
演 題：「成人期の支援
～知的障害を伴う自閉症のグループホームへの以降とその生活～」
講 師：加藤 健生 氏、木村 友香理 氏、酒井 健作 氏

※オンデマンド動画配信期間：令和6年12月20日（金）～令和7年1月5日（日）まで

【編集後記】

今回の佐々木先生の講義は、今の学校のリアルな姿がよくわかる内容だったと思います。先生は「教師の専門性が子どもに与える影響（情報の精度）」を現在研究されているとのこと。かの佐々木正美先生がよくおっしゃっていた「当事者を苦しめているのは無理解で熱心な人」というお話も講義の中で取り上げられました。私たち支援者が「専門性を」そして「提供する情報の精度」を高める努力を積み重ねることの重要性を改めて感じました。今回の講義では時間が足りず、チームビルディングのお話はお聞きできませんでした。現在、【特別支援教育の実践情報】という雑誌に連載をおもちの佐々木先生。Amazonで購入できますので、そちらも皆様、参考になさってみてはいかがでしょうか。

先生の講義の中でも出てきた加藤先生は第5回セミナーの講師です。これからも研修を重ね、専門性を高めていきたいと思っております。（文責：鏡）